



# 森のなかま

2024年 6月号

NO. 192 (継続337号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 黒川 敏史  
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

## 令和5年度 成長の森 植樹会

日時：令和6年3月9日(土) 7:50~16:00 晴れ

場所：県立21世紀の森(南足柄市)

県：武田様、星様、宮崎様、村松様、藤原様、佐藤様、黒田様、秋本様、堀家様

財団：豊丸様、倉野様、南橋様、古舘様、藤本様、江坂様

自然環境保全センター：斎藤様、 県立21世紀の森：野村様

看護師：青木様

インストラクター：L内田⑰、上宮田⑪、山口⑪、西出⑫、大原⑬、岩田⑭、黒川⑭、西岡⑭、  
牧石⑭、石垣⑮、大谷⑰、小国⑰、高谷⑰、森本⑰、田島⑰

参加者：188名(大人122名、子供66名)

### ◆ 植樹会場

前日の天気は雨、みぞれ、晴れ、そして夜には森林館付近に落雷がありました。当日は好天に恵まれ、大人、子ども合わせて約180名が来場されました。

21世紀の森駐車場からバスで10分ほど上った約100平方メートルが今回の植樹会場です。令和5年度の成長の森事業として、無花粉スギと無花粉ヒノキを実際に植えていただくことで、より一層思い出に残る充実した内容となりました。

植樹会場に到着後に10~15名ほどに分かれた参加者に対してインストラクター(2名)が植樹デモを行いました。その際ヒノキは表と裏があることをしっかりと説明しました。その後、参加者に無花粉スギと無花粉ヒノキを数本ずつと唐鍬と移植ゴテを渡し、植樹会場へ移動していただきました。

植樹会場には8名のインストラクターが待機しており、参加者の植樹開始です。約1メートル間隔に置かれた竹支柱の箇所唐鍬で掘る作業は、予想以上に地中に根が多く張っていたり、埋め戻す土が確保できなかったりで、難航していました。穴を掘り終えヒノキの苗は表を南に向けてしっかり踏み固め、最後にピンクのリボンを巻いて1苗完了。当日は南(箱根方面)に明神ヶ岳がくっきり見えていたので、その方向に苗木の表を向けてくださいと言う説明もできました。

参加者は植樹を終えると、銘板の家族の名前の前で記念撮影。子どもたちは自分の名前を見つけてうれしそうにしていました。

参加者は、小学生と親御さん、そして祖父母の方々も一緒というご家族が多かったです。未就学の可愛い子どもたちの参加もありました。

参加者の植樹終了後、植樹しきれなかった苗木をインストラクター全員で植樹を行い、令和5年度の森が完成しました。

(記 田島 聖一郎⑰ 小国 一男⑰、写真 内田 祐子⑰)



## ◆ 丸太切り会場

丸太切りの素材は、サクラ(直径 25cm)とカツラ(直径 5~10cm)を準備し、延べ 43 組(サクラ 17 組、カツラ 26 組)のご家族に丸太切り体験いただきました。

大人も子どもも普段見慣れない両手挽き鋸に目をキラキラさせて、サクラの丸太切りにチャレンジ。ご家族で息の合ったリズムでの丸太切りで、仲良し家族の温かさが伝わってきました。



カツラのコースターづくりは、小さな子どもが一人でチャレンジする姿が目立ち、参加者の親御さんには、子どもの成長も感じられた丸太切り体験になったと思います。

(記・写真 森本 利弘<sup>⑦</sup>)

## やどりき事業部会 2024 年度

## 「やどりき水源林 森の案内人研修」

日 時：令和 6 年 3 月 20 日(土) 10:00~15:00 晴れ

場 所：やどりき水源林

参加者：43 名

かながわ森林インストラクターの会の委託事業活動の一つ“やどりき水源林 - 森の案内人”の研修会が、3 月 20 日“春分の日”に実施されました。この日の水源林は気温が低く空気は冷たいながらも、すっきりと晴れわたった空で、2024 年度の案内人 71 人のうち 43 名が集結しました。

研修会の目的は、①訪問される方々が安全に、楽しく、ご満足いただくための心構えや準備について、②「水源林の役割」を伝えるという重要な役割があることを共有し、それらの重要なポイントを綿密に盛り込んだ研修資料をもとに、やどりき水源林の遊歩道 A,B 林道コースを周る研修プログラムでした。

今年の森の案内人は、熱意ある 17 期生と 16 期生の参加が多くベテランの案内人と熱意が合わさり、新たなプログラムも用意され今後の発展が期待されます。



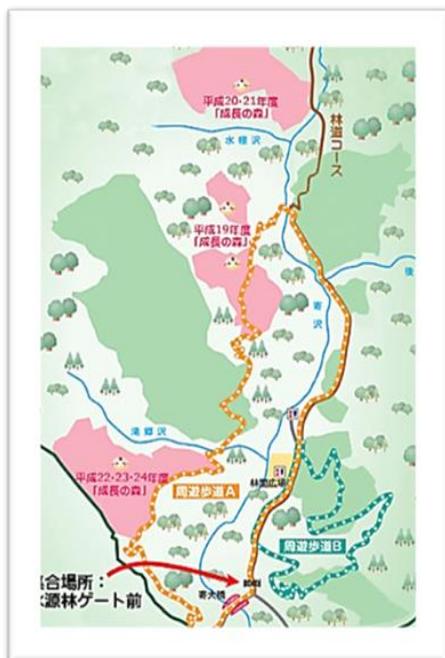
真剣に聞き入る、2024 年度の森の案内人



この研修では、新“森の案内人”が、先輩の森の案内人ごとに班に分かれて、現地を周り、ご案内するポイントを受けました。

熟練インストラクターも、現地を確認！

雑然とした用具や材木の置き場を整理整頓！



午前中は座学と班に分かれ、林道コースを回り、注意箇所・安全配慮する点、動物の痕跡、四季折々に見られる植物、良く聞かれる鳥のさえずりなど確認し、初心者の方には、案内時の装備、緊急時の対応、日誌、記録など一連の手順についても連携しました。午後はやどりき事業部役員と有志により、コースの安全状況を確認しながら研修用動画の撮影も行いました。

やどりき水源林は、新緑が芽吹き、山花が咲き、鳥たちのさえずりが森いっぱい響き渡っています。夏には豊かな緑に覆われた木々の下で、涼しい風を感じながら散歩することができます。秋には紅葉と黄葉、木の実拾い。そして冬は静かな森を体感できます。やどりきの風景は、訪れる方々に心の癒しを与え、自然の恵み大切さと可愛らしい小動物の生態系を目にすることもできる素敵な場所です。“森の案内人”は準備万端で皆様のお越しをお待ちしております。

(記・写真 笠原 かずみ<sup>⑭</sup>)

## 令和6年度 第1回ブラッシュアップ研修

日時：令和6年4月21日（日）9：30～15：30 晴れ～曇り

場所：神奈川県自然環境保全センター レクチャールーム

講師：看護師 青木伸也 氏

参加者：27名（早退1名）

日頃からイベント等でお世話になっている看護師の青木伸也先生より「車が入れない傷病現場からの搬送方法を中心とした救急法について」研修いただきました。

実習では、実際現場に持参する AED のデモ機を活用した心肺蘇生法を学び、参加者は順番に人体模型に心臓マッサージを施しました。

「心臓マッサージは正確な場所に正しい力加減で行わなければならず難しかった」「1人の傷病者に対し複数人で交代しながら取り掛かる必要性を実感した」との感想をいただきました。



他にも竹とブルーシート

を活用した担架作成方法やブルーシートのみを活用した搬送法、安定感のあるおんぶの方法、ザックを活用した搬送法を学びました。青木先生からは「傷病者が出たら、まず看護師を呼ぶこと」「狭い道を搬送するには担架より、おんぶ等の方が現実的」「場合によっては搬送をレスキュー隊に任せるといった判断をする」など、我々の活動に即した実践的なお話をいただきました。

講義では、野外活動で知っておきたい医療知識を最新の情報を交えてお話いただきました。怪我の応急処置方法や内科救急の対応方法、害虫・有害植物への対策と対処法、慢性疾患悪化への対応や救急バックに入れておくべきオススメ品をご教授いただきました。

参加者からは、「最新の情報をもれなく織り込んでいただき、活動範囲をカバーした幅広い内容で、大変に勉強になった」「実際にやってみて、人を運ぶのは大変だと思った。救急対応や搬送することのないように指導していきたい」「搬送のことも考えた施業場所の選定をしていきたいと思った」「心肺蘇生法は知っているだけではいざという時に対応できない。万が一に対応できるように復習し、繰り返し救急法や安全管理などの研修に参加する必要があると感じた」などの感想をいただきました。

(記 南橋 友香(みどり森林課)、写真 末原 興一⑮)



### <会員コラム> 森林文化部会 奥多摩見学

日 時：令和6年4月14日(日) 晴れ

AM8:30 奥多摩駅集合 ~ 自家用に乗り換え奥多摩湖周辺へ ~ PM15:00 奥多摩駅解散

菊池昭子①、内野ミドリ⑨、真貝勝⑩、石井裕⑮【車】

好天と満開桜に彩られていた奥多摩を巡ってきました。

目的は今後の文化部会活動の参考にしようと、県を跨いだ森では何をやっているのか、それを確かめたく東京の山奥へ。

奥多摩エリア周辺には幾つかの森林体験施設があります(21世紀の森の様な)。

今回は『山のふるさと村』『奥多摩都民の森』そして奥多摩観光では定番の『小河内ダム』(奥多摩湖)を見てきました。

まず『山のふるさと村』へ。

湖畔の山間にある施設で、観察やクラフトなど豊富な体験プログラムがあり、クラフト系では定番の木工に加え、陶芸や石細工などのプログラムも用意されてました。私たちは施設のスタッフからのお声掛けで館内展示物、地区の自然や歴史など丁寧な説明を受けました。また周辺地域のパンフレット、リーフレットが多数あり、地域文化の勢いを感じました。

さらにこの日は『春の桜祭り』が開催されていて、出店や音楽、地元舞踊(鹿島踊り)などで賑わっていました。

次に『奥多摩都民の森』。細い林道をぐんぐん登って行った山の上にある森林施設。林業体験や登山など、アクティブに野外体験をしながら宿泊もできる。環境はととても静寂で心落ち着く場所でした。

最後は奥多摩の巨大シンボル『小河内ダム』。近代的な建物のダム資料館では、3Dビジョンを使って水道水源林の話など、迫力のある映像で楽しませてくれます。子供たちも喜びそうな施設です。

帰りは、山奥に聳える巨大な堤体の上を歩きながら、奥多摩を彩る桜の景色を楽しみました。

以上で、お隣り東京奥多摩の『森林文化』を少しですが覗いてきた一日でした。

そして改めて、我々が神奈川の森林文化にふれてみたいと思いました。

(記 石井 裕⑮、写真 菊池 昭子①)



## シリーズ 『やま』の色々

### 第2回 生物多様性について考えてみます②

#### サンフランシスコの様子

公益社団法人 大日本山林会参与 桜井尚武 氏

地勢的には、アメリカの太平洋側の長い海岸線沿いの一部にサンフランシスコは位置しています。東側はロッキー山脈の高山が衝突のように連なり、西の海岸側は太平洋沿岸沿いに丘陵帯や低い山稜が連なっている中緯度の地域です。この海岸沿いの山地帯が海風を遮り、その山地帯を越えた気流が下降して渓谷沿いに雨を降らせ雲霧帯を作ります。この降水量の多い谷底部に世界一樹高が高くなるとされるCoast Redwood（センプルセコイア）が群生しています。しかし、その谷底部の外側はかろうじて灌木帯がある程度の乾燥地です（図1、図2）。



図2. サンフランシスコ近郊の山地帯の景観 (2023.4.9)

次に歴史です。1821年にスペインからメキシコが独立してこの地域もメキシコになりましたが、米墨戦争後1847年にアメリカに割譲されました。その頃はまだ住みにくい小さな植民地であったと言います。翌年1月にカリフォルニア中北部のサクラメント川に金鉱が見つかり一大ゴールドラッシュが起きて大勢の人々が押し寄せました。この人々はアメリカ民謡と言われている「いとしのクレメンタイン(Oh my Darling Clementine)、日本では雪山賛歌の原曲として知られる」のなかで49年者(Forty-niner)と呼ばれた人達です。その後アメリカ各地から更に金採掘者はもちろん、それ以外の様々な業種の人々が集まりました。サンフランシスコ湾は太平洋に開けた良好な湾、金門があり貿易が盛んにもなりました。一大商業地が興った結果人口が増えて彼らの生活のために多くの樹林が伐採されました。

この樹林とは渓谷地帯の限られた所に成立した樹林で、その一つのCoast Redwood（センプルセコイア）の林も大方が伐採されました。伐り残されたRedwood林は今では大事に保全され観光資源となっています(図4)。

図5は1943年に伐採されそのまま保全されたもので、伐根年輪で数えた樹齢が1728年、樹高は101.8m、切り株直径6.4mという巨大なものですが、このような樹木がそれぞれ林立していました。自然破壊を激しく行う一方で、このような記録を残すのがアメリカ流ですね。

桜井先生のご執筆内容にご感想やご質問がありましたら  
先生のアドレス

[hayachines@yahoo.co.jp](mailto:hayachines@yahoo.co.jp) にお送りください！



図1. 金門橋を北に渡りきった辺りからの景色で左の山地に高木の樹林地は見られない (2023.3.30)

サンフランシスコ中央部の降水量は少なく、5月から10月までは乾燥し11月から4月にかけて降水があるといいますが平均の年間降水量は538 mmという記述がありました。関東地方の年間降水量は1,600 mm程度です。年降水量が400 mm以下になる地域では森林群落の維持が難しくなるという報告がありますから、この地域はかなりの乾燥地と考えていいと思います。



図3. 図2の下部の森林帯内部の様子  
Oakを主とする風雪に耐えた樹形の森  
(2023.4.9)



図4. Muir Woods National monument  
(2023.3.30)



図5. カリフォルニア・メンドシノ郡に  
展示されているCoast Redwood  
眺めているのは私の孫達  
(2024.2.24)

## 活動短信

今回の掲載はR6年2月23日からR6年3月31日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

6月(水無月)(旧暦5月皐月)の  
二十四節気と雑節、鳥こよみ

二十四節気：芒種6/5 夏至6/21

芒種は稲などの穂の出る作物の種を蒔くころのこと。神奈川では田で若苗が成長する季節になっていますね。

鳥こよみ：やどりき水源林でオオルリの声が響くと初夏の到来を感じます。木のとっぺんで長時間鳴き続ける日本三鳴鳥の一つ。でもガビチョウの物まねには注意。

### ◆ NPO法人 チルドリン様

#### 第1回かながわ木づかいフェア

日 令和6年2月23日(金：祝) 10:00~16:30 雨  
24日(土) 10:00~16:30 晴れ

場 三井アウトレットパーク横浜ベイサイド

参 一般県民 初日 約230名、2日目 約420名

イ L小林⑩、長尾⑪、大原⑬、石垣⑮、小俣⑰、小国⑱

神奈川県が主催し、子育て支援団体「NPO法人チルドリン」様が企画運営を担う木育イベント「第1回かながわ木づかいフェア」が、2日間にわたり「三井アウトレットパーク横浜ベイサイド」にて開催されました。

当フェアは「かながわの森に ふれる・知る・ともに暮らす」をテーマに、県産木材の認知度を向上させ県民の木材利用の促進を目的とした催しで、体験コーナーやクラフトワークショップなどが多数出展し、当会は体験コーナーのひとつ「丸太切り」を担当しました。

「くじらの大屋根広場」の一角にヒノキの丸太を載せたやぐらを2セット配置、1セットごとに2名のインストラクターが丸太の固定とお客様誘導およびノコギリの使い方指導にあたります。もちろんお約束のヘルメット着用です。

初日(2/23)はあいにくの雨。会場は屋根がかかっているもののほとんど屋外のような造りでかなり冷え込みましたが、徐々に来訪者が増えていき、マスコット「かながわしずくちゃん」も来て、終了まで引きも切らない盛況となりました。聞くと、小学校でこの催しの告知がなされたようで、丸太切りに興味を持った小学生が家族連れで来て、夢中になって最後までノコギリを引く様子が多く見られました。

2日目(2/24)は一転快晴。予想どおり来訪者がさらに増え、最終的には前日の約2倍!!になりました。が、この日は丸太の本数を増やし長さも充分だったので、両端



で切ることにより大きな混乱なく進めることができました。またこの日の丸太は皮を剥いた状態のもので木屑が細やか、「きな粉みたい!」「い〜い香り!」と

感想を述べるお子さんが何名もいました。中には集めてビニールに入れ持ち帰るお父さんもいました。

会場のすぐ横はヨットハーバーで、いつもの森の中とは趣が異なりましたが、体験コーナーには丸太切りの他、かんな削り、木のジャングルジム、モルック、県産木材で作った茶室での抹茶体験などのアトラクションがあり、触って、切って、削って、使って、木に親しむ体験を楽しんでいただいたと思います。

(記 小国 一男⑰、写真 石垣 桃栄⑮ 小林 照夫⑱)



### ◆ アコム株式会社様 アコムの森 間伐作業(カツラ)

日 令和6年3月2日(土) 10:00~14:30 曇り

場 21世紀の森(南足柄市)

参 23名(大人23名)

県 水源環境保全課 宮崎グループリーダ 星主事

イ L森本⑰、牧石⑱、鈴木⑰、高谷⑱

3月に入りサンシュユが咲き始めていましたが、ときおり雪がちらつく中での活動になりました。アコムの森活動は今期4回目ですが、間伐作業が初めての方も多く、作業手順を丁寧に説明して進めました。胸高直径10-20cm、高さ20-25mのカツラを3班に分かれて伐倒。前日の雨天で足元が悪い斜面での作業でしたが、皆さんよいチームワークで、緊張の中でも和気あいあいと伐倒作業を楽しんでいただけました。

(記 高谷 秀史⑱、写真 森本 利弘⑱)



### ◆ 自然観察研修会

日 令和6年3月24日(日) 9:30~15:00 曇り-雨

場 鎌倉広町緑地

参 講師：西岡⑱、河西⑱、受講者：阿部⑱、内野⑨、湯浅⑱、安井⑱、鈴木⑱、石垣⑱、久慈⑱、久次米⑱、小池⑱、三浦⑱、柳沢⑱

桜の開花が待ち遠しい生憎の曇り模様の中、湘南モノレール西鎌倉駅に集合し、一行は徒歩で活動場所である鎌倉広町緑地へ向かう。

現地では、参加者自己紹介の後、講師より本日の目的である、「誰にでも分かりやすい解説をして、森林(自然)に関心を持ってもらう」、「安全で楽しい活動にする(参加者だけでなく自分も楽しむ)」の確認のもと、2班に分かれ研修会の開始となった。



班別の活動は、まず講師の案内に従い本日の研修コースを一周した。受講生は講師の説明する植物や樹木についてノートに記録、写真撮影する等しながら、午後からの実習に備え研修は進められた。

天候の怪しい中ではあったが、この日は地域のイベントが実施されており小さい子ども連れの親子も多く、植物の観察をしていると小さい子供に「何を見ているの?」と声を掛けられるほか、散歩やランニングをされている方もいらっしゃり、周囲の状況にも注意を払いながら行動、この地が地域に大切にされていることが感じ取れる様子であった。

昼食後、いよいよ受講生による実習開始。筆者は、講師の話された内容を見ながらのしどろもどろであったが、ベテランの受講生



は、講師の話を自身の持ちネタを元に説明を展開、自身も楽しみながら参加者の興味を引き付ける等、各自各様の観察方法を示され、本日の目的の一つである「安全で楽しい活動にする(参加者だけでなく自分も楽しむ)」を実践されていた。

雨も降りだし、人もいなくなる中、雨音を聞く「サイレントウォーク」を経験し、予定の活動も無事終了することができた。

(記 柳沢 徳雄<sup>⑰</sup>、写真 西岡 一郎<sup>⑭</sup>)

#### ◆ 神奈川トヨタ プリウス森木会様

1日目

**日** 令和6年3月30日(土) 9:30~15:30 曇りのち晴れ  
**場** やどりき水源林  
**参** 大人20名 子供2名(内トヨタ社員8名)  
**県** 県水源環境保全課 宮崎様、秋本様  
**イ** L野口<sup>⑰</sup>、野牛<sup>⑧</sup>、上宮田<sup>⑪</sup>、岩田<sup>⑭</sup>、牧石<sup>⑭</sup>、内田<sup>⑰</sup>、藤田<sup>⑰</sup>、広浜<sup>⑰</sup>

2日目

**日** 令和6年3月31日(日) 9:30-15:30 晴れ  
**場** やどりき水源林  
**参** 大人25名 子供13名(内トヨタ社員6名)  
**県** 県水源環境保全課 藤原様、佐藤様  
**イ** L野口<sup>⑰</sup>、上宮田<sup>⑪</sup>、稲野辺<sup>⑬</sup>、岩田<sup>⑭</sup>、牧石<sup>⑭</sup>、飛田<sup>⑮</sup>、内田<sup>⑰</sup>、田島<sup>⑰</sup>

1日目は、春の嵐の翌日であったため、寄沢の水量が多く、水源林内は枝葉も多く散乱している中で2日目はやどりき水源林の集会棟前の桜も開花



し晴天で絶好のハイキング日和の中でのプリウス森木会。午前中は、ガイド付きのBコース散策とコース上のプリウスの森での簡単な林内整備を実施し、昼食後、クラフト、



丸太切りと切った丸太への焼印、水生生物観察を実施しました。Bコース散策では、緑のダムとしての水源林の役割について知ってもらい、落ち葉の道の感触、木々の香り、木立を抜ける風や沢の音などを体感して頂きました。また、神奈川美林50選に選定された100年杉の巨木やムクロジの実のペットボトルを利用したシャボン体験など、大人から子供まで日常生活では体験出来ない経験をし大変喜んでおられました。昼食時には寄のしおやの鹿シチューに舌鼓を打っておられました。2日目の昼食後は、寄沢の水量も減っていたこともあり、河原に降りて沢の散策を楽しまれていました。

午後は、クラフト、丸太切りと、切った丸太への焼印、水生生物の観察を自由に行ってもらいましたが中でも水生生物観察に夢中になっている大人の姿が大変印象的でした。丸太切りでは、檜、杉、桜など木の堅さや香りの違いを感じて頂き、クラフトでは端午の節句の鯉のぼりを作って頂きました。



2日間を通して朝のオリエンテーション時は幾分緊張気味で固い表情の参加者も、帰りには柔らかな笑顔で「またやどりき水源林に来ます!」と言って帰られたのが印象的でした。(記・写真 野口 忠志<sup>⑰</sup>)

**やどりき水源林ミニガイド**

**「やどりき森の案内人」**

毎週土曜・日曜の午前10時と午後1時から「NPO法人かながわ森林インストラクターの会」会員が水源林をご案内します。やどりき水源林ゲート前までお越しください。

**「やどりき水源林ニュース」**

5月号は「みどりがいっぱい やどりき水源林へ」です！



森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <https://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>  
(HP担当：森本 利弘)

◇ **森のなかま原稿募集** ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。原稿は随時受付けています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

河西 静夫  
Mail: [skasai0618@gmail.com](mailto:skasai0618@gmail.com)  
Tel : 090-1227-6209

<電子配信会員向け担当>

小池 宗子  
Mail: [muneko-sakura@outlook.jp](mailto:muneko-sakura@outlook.jp)

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】河西 静夫  
Mail: [skasai0618@gmail.com](mailto:skasai0618@gmail.com)

【別冊】小国 一男

Mail: [ka-oguni@ab.auone-net.jp](mailto:ka-oguni@ab.auone-net.jp)

◇ **編集後記** ◇

★ 暑くなったり、肌寒くなったり、寒暖差が大きかったです。ようやくおさまりそうです。が、こんどは何かとても暑くなりそうで、最近少し老いを感じ始めたので気を引き締め心身ともに気候に負けない様に“カツ”をいれていきます。(松本)

★ 昨年末から孫に誘われて早朝ウォーキングを始めた。一日も休まず連続200日を迎えた。雨の日も続けることに注力し結果は平均9,000歩だったので1,350km以上歩いたことになる。神奈川県から福岡県より長く歩いたことになる。振り返ってみると体の体重の減量や健康増進だけではなく、歩行中は頭が空白になり仕事や日頃の鬱蒼を忘れ、周囲の草花や鳥の鳴き声など自然を享受できたことではなかっただろうか。私の本当の収穫を短歌で表すと

「朝霧に包まれ孫と早朝ウォーク  
雲から顔出す富士に挨拶」(小林)

★ 先日実家の庭の手入れをしていたところ、虫を喰えたシジュウカラが頻繁に頭上を行ったり来たり。何処かに巣があるのかと、作業を終えて離れたところから観察していると、なんと作業中足元にあった信楽焼の狸の置物の後頭部にある穴に入っていました。蹴飛ばさなくてよかった・・・(河西)



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取り組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

かながわすくちゃん Twitter は下記URLで見ることができます。



[https://twitter.com/kanagawa\\_sizuku](https://twitter.com/kanagawa_sizuku)



やどりき水源林問合せ：(公財)かながわトラストみどり財団

TEL : 045-412-2255 / FAX : 045-412-2300  
<https://ktm.or.jp/> Mail: [midori@ktm.or.jp](mailto:midori@ktm.or.jp)

かながわ森林インストラクターの会

<https://www.forest-kanagawa.jp/> Mail: [k-inst0981@friend.ocn.ne.jp](mailto:k-inst0981@friend.ocn.ne.jp)

**年間通読のお申し込み**

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

便振替口座 00230-0-2454 **かながわ森林インストラクターの会**  
宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人： 河西 静夫  
広報部： 黒川 敏史、松本 保、  
笠原 かずみ、長尾 晴子、  
小林 照夫、小国 一男、  
小池 宗子  
支援： 大原 正志、吉田 郁夫